第23号　２００９年（平成２１年）６月２９日

TOHOKU U.H.
NST

NST No.23

編　集／衣袋静子　太田正孝
近藤健男　崎野健一
瀬田　拓　高橋美貴子
平野洋子　宮田　剛
渡邊サチ子
発行／東北大学病院NST広報係
TEL.7120　FAX.7147

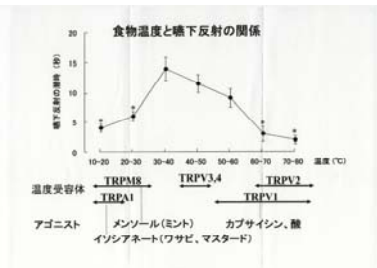
NUTRITION　SUPPORT　TEAM　NUTRITION　SUPPORT　TEAM　NUTRITION　SUPPORT　TEAM

NST研修会（2009.3.9開催）
～感覚刺激を介する摂食嚥下障害対策及び誤嚥予防 ～

これまで摂食・嚥下障害のある高齢者に食事はとろみなどの物性の面にのみ重きが置かれてきた感がある。しかしながら、我々は高齢者の嚥下反射はたとえ障害されていても温度感受性であることを見出した。我々の嚥下反射を活性化する温度領域の結果より、これまで同定されている6個の温度感受性TRPチャンネルのうち、TRPV1、TRPV2、TRPM8、TRPA1（図１）が嚥下反射の活性化に関与する可能性が示唆され、TRPV1及び TRPM8刺激による摂食嚥下改善法を開発した。さらに非常にADL・意識レベルの悪くてとても経口の方法がとれないような高齢者にたいする摂食・嚥下改善法として嗅覚刺激による方法を考案した。それは黒コショウの匂い刺激である。この方法により誤嚥と関係のある脳血流低下部位を回復させることができ、嚥下反射が改善した。この匂いの薬効成分はナノ粒子であり、これを持続的に患者の嗅覚神経に到達させる簡便な方法、ナノ粒子ドラッグガスデリバリーシステムを開発し、市販されている。このような感覚刺激を介する方策は、高齢者の高次脳機能を活性化する摂食嚥下障害対策と考えられ、有望な方策と考えられる。

（文責：老年科　院内講師　海老原　覚）

図１



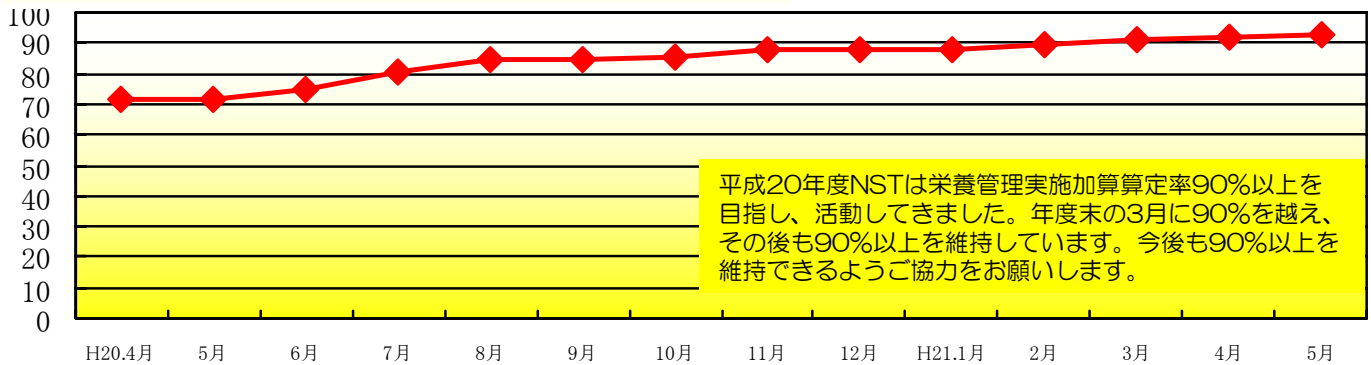
平成20年度
NSTまとめの会より

NST病棟メンバーまとめの会について
（2009. 3. 11開催）

（文責：副看護部長　酒井　敬子、西15階病棟師長　荒木　和子）

３月１１日（水）にNST病棟メンバーのまとめの会が行われました。１５病棟から栄養に関する今年度の部署の取り組みについて発表があり、参加者数はNST病棟メンバーも含め６０名以上でした。
NST病棟メンバーのいる部署は少しずつ増え、１９年度は１０病棟２０名でしたが、２０年度は１６病棟４３名となって更に活発化しています。
１９年度は病棟での具体的な活動は始まったばかりで、各病棟のメンバーは手探りの状態ながら患者さんの栄養評価のために自部署の問題点や学びたい事などに取り組みました。
２年目となった２０年度は１９年度からの課題に対してのこれまでの取り組み、今後の抱負など内容も充実しており、どれも大変興味深く勉強になるものでした。部署によっては病棟スタッフへアンケートを実施したり、体重測定を確実に行い入力するための取り組みやパスの前段階になるようなものの作成、病棟での栄養に関する勉強会の企画など報告されました。また栄養カンファレンスが定着している部署ではカンファレンスの進め方やカンファレンス風景、栄養から見た問題抽出チェックシートなどの紹介もありました。
今回のまとめの会でも栄養管理が必要であるという認識を持った部署の増加により、東北大学病院の栄養の輪が広がっている事を実感しました。NST病棟メンバーさん、サポートしていただいた栄養管理室の皆さんお疲れ様でした。今後もNSTでは「栄養療法の普及」のために支援していきたいと思います。宜しくお願いします。

栄養管理実施加算算定率(H20.4月～H21.5月)



平成20年度NSTは栄養管理実施加算算定率90%以上を目指し、活動してきました。年度末の3月に90%を越え、その後も90%以上を維持しています。今後も90%以上を維持できるようご協力をお願いします。

※医事課算定資料より